



にゅうようせ

乳幼セだより

R7.9 No.4

山口県
乳幼児の育ちと学び支援センター
☎083-933-4450
✉a50908@pref.yamaguchi.lg.jp

新たな学びが教育・保育へのモチベーションアップに!

乳幼セでは、今年度も様々な研修会を行っています。今回は共通研修の中から3つの研修をピックアップしてご紹介します。

保幼小連携研修会A

6月27日(金) 会場:阿武町立阿武小学校

令和6年度の幼児教育・保育長期研修派遣教員による、1年生算数科「かずをせいりしよう」の授業が公開されました。子どもたちは、大きさの違う遊び道具の写真を、年長児にとってどれが大きいか分かりやすいようにするために、どうしたらよいか自分で考えたり、友達や先生の言葉からヒントを得て並べかえたりしていました。その後研究協議を行い、授業で見られた子どもたちの学びや育ちの姿をもとに話し合いをしました。保育者・小学校教員が幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿を手がかりに日頃の幼児教育・保育を振り返ったり、自園・校の保幼小連携の取組について意見を交わしたりしました。県内各地から参加者がいたことで、地域の取組等についても話が出ていました。最後に、やまぐち総合教育支援センター研究指導主事による指導助言があり、日頃の幼児教育・保育や遊びの中には、「数に対する感覚」の芽生えがたくさんあることに改めて気付くことができました。



幼稚園や保育園で大切にしている自己決定の場を小学校でも取り入れていく必要があると思った。

アンケートより



今後も幼保小連携をよりよくするために、協働していく必要があると感じた。だからこそ、今回のような研修や日頃からの連携が大切であると思う。



保幼小連携研修会Bは、11月4日(火)に開催します。対面とオンラインのハイブリット型で行います。多数のご参加、お待ちしております!

乳児保育研修B

8月26日(火) 会場:YMfg維新セミナーパーク

演題は、「子どもが『ジブンデ』食事を楽しむための保育とは」と「子どもが『ジブンデ』排泄に向かう保育とは」でした。子どもの「ジブンデ」を伸ばすためには、子どもが発する「発達(成長)のサイン」を読み取り、環境を整えることが大切であることを学びました。参加者は、子どもの「ジブンデ」食べるをサポートするために保育者ができることやトイレの環境等について、自分の保育や自園・施設のことを振り返り、参加者同士で話し合いました。具体的な子どもの姿をもとに、悩みや課題を話したり、他施設の取組を知り、ヒントを得たりする様子が見られました。

「ジブンデ」という子どもの気持ちに寄り添って、できるところは子ども自身で、難しいところはさりげなく援助するというのを大切にしたいなと強く思った。

アンケートより



職員間でサポートの仕方について話したり、やり方を共有したりすることも大切だと分かった。



子どもの「ジブンデ(主体性)」を大切にすることはもちろんですが、保育者が常に子どものためになっているかを問い続けること(保育者の主体性)も大切にしたいです。

乳幼セのやないです♪



特別な配慮を必要とする子どもの保育研修会C

9月9日(火) 会場:YMfg維新セミナーパーク

演題は、「特別な配慮を必要とする子どもの最善の利益を保障する福祉的連携」と「特別な配慮を必要とする子どもの就学前の支援～幼児期から学齢期につなぐ支援について～」でした。子どもの最善の利益の保証のために、子どもを理解し、子どもにとって最適な教育環境について考え、就学後の見通しをもつことの大切さを学びました。演習では、異校種でグループワークを行ったことで、施設類型が違って共通の悩みがあることや、それぞれの立場での日々の工夫などに気付くことができました。日頃なかなかじっくり話す機会がない方同士での協議は、参加者にとって有意義な時間となりました。



特別な配慮を必要とする子どもの就学前の支援について、個々の家族や子どもの背景があり、常にこれで良いのかという迷いや不安がある。保護者に根気強く寄り添うこと、子どもたちのありのままの姿と向き合うことを慎重に行っていききたい。

アンケートより



少子化の一方で、配慮を要する子どもは、年々増加していると思う。園や行政が連携して、子どもの最善の利益を1番に考えながら、健やかに育ていけるような支援が出来れば良いと思った。

子ども一人ひとりと丁寧に向き合い、その子と家族に寄り添った支援ができる保育者でありたいと感じました。

乳幼セのしおかです♪



今後も、乳幼セは幼児教育・保育の質の向上をめざして、研修内容等を検討し、企画・運営していきます!